

事務事業名		広域連携観光振興事業			☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 - 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	23 豊かな地域資源を活用した観光の振興				
	基本事業名	01 観光客の誘致と観光宣伝の充実				
根拠法令					予算科目 会計 款 項 目 事業 01 07 01 04 08	
所属	部課名	商工港湾部商業観光課				
	課長名	鈴木 弘				
	係名	観光物産係	電話	27-3111		
	担当者	松川直史	内線	116		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 広域による観光誘客の推進を図ることが効果的であることから、関係市町村等で組織する団体に負担金を交付し、主に次のような活動をしている。 ・パンフレットの作製、配付 ・旅行商品の開発 ・観光宣伝キャンペーン ・情報の提供、交換 主な業務は、①担当者会議への出席、②負担金の支出、③各種情報の交換、④観光キャンペーンの実施。 事業費は、負担金として支出される。					全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動)				⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
前年度実績(前年度に行った主な活動)				名称		単位			
負担金の交付(東北都市観光協議会、復興国立公園協会、五葉山自然保護協議会、国立公園関係都市協議会、黄金王国推進委員会、財団法人岩手県観光協会、いわて観光キャンペーン推進協議会、三陸ジオパーク推進協議会、三陸けせん観光協議会)				ア 担当者会議出席回数		回			
今年度計画(今年度に計画している主な活動)				イ					
前年度実績と同様に活動予定であり、東日本大震災により被害を受けた観光素材等の整備を行い、受け入れ態勢の再建(観光素材の情報収集・情報発信など)を行っていく。また、今年度当市に五葉山自然保護協議会事務局を置く。				ウ					
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等				カ 負担金を支払っている広域観光関連団体数		団体			
・直接対象 広域観光関連団体				キ					
・間接対象 観光客				ク					
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)				⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					
・広域圏の観光PRを通じて、大船渡市の観光資源を知ってもらう。				名称		単位			
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)				サ 広域圏のイベントを通じて大船渡市が紹介された件数		件			
①大船渡市を訪れる。				シ					
②魅力がPRされ、認知度が高まる。				ス					
(2) 総事業費・指標等の推移									
		単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	1,841	1,034	1,050	2,352	2,352	2,352
	事業費計(A)		千円	1,841	1,034	1,050	2,352	2,352	2,352
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	5	5	5	5
		延べ業務時間	時間	150	150	200	200	200	200
		人件費計(B)	千円	600	600	800	800	800	800
		トータルコスト(A)+(B)		千円	2,441	1,634	1,850	3,152	3,152
⑤活動指標	ア	回	4	12	13	10	10	10	
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	団体	8	7	8	8	8	8	
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	件	9	8	8	10	10	10	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0446	事務事業名	広域連携観光振興事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
各団体等の結成に伴い、負担金を交付した。開始年度は各団体の結成年度である。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
平成24年度4月から6月に開催されたいわてディスティネーションのため、平成22年度にいわてディスティネーションキャンペーン協議会が発足し、ディスティネーションキャンペーン終了後、平成25年4月から同協議会の名称をいわて観光キャンペーン協議会に変更し、継続して事業が推進されている。また、平成25年9月に三陸沿岸が日本ジオパークに認定されたことに伴い、三陸ジオパーク推進協議会が発足し当市も会員となった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
広域における観光振興事業数は年々増加傾向にあるが、類似した事業も多く、統廃合等が必要であるとの意見が寄せられている。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 広域圏の魅力をPRして訪れてもらうことで、当市の観光振興につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 行政として観光振興施策を推進するための組織の負担金であるため。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 加盟している組織の負担金である。対象・意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 東日本大震災により減少していた三陸地方への入込観光客数が回復傾向にあることから、広域で観光PR等すること で、より効果的な誘客を図る。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 市単独で効果的に観光客を受け入れることは難しく、広域での観光受け入れを行う必要があるため、広域連携した 観光振興が行われなくなった場合、当市への観光客入り込み客数減少等の悪影響が考えられる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携 の可能性	☒ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) 類似する協議会があるため、業務内容を統廃合する。 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ それぞれ目的を持った組織であり、構成員が異なり、統廃合は不可能である。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 効果的な事業運営に努めることや、公平かつ合理的な会費制度とすることなど、削減の余地がある。大船渡市の観 光資源がPRされる団体活動に特化していく。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削 減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 五葉山自然保護協議会については、2年ごとに釜石市と交代で事務局を担当している。安全祈願祭と調査登山は 毎年対応しなければならず、事務局を担当した場合は事務量が增加する。その他の組織は調整等が主な業務となり、 それほど大きな事務量はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正 化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 組織の目的を達成するための負担金であり、適正である。

事務事業ID	0446	事務事業名	広域連携観光振興事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 岩手県観光協会では、岩手県が会費の削減を行ったことから、市町村及び観光協会等の会費も同率で削減した経過があり、収入に見合った事業実施で対応している。 このことから、事務事業の見直し(縮小)によっては、事業費の削減も可能である。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 東日本大震災発生以降落ち込んだ観光客数が回復しつつあることから、各種組織の事業や目的等を明確化し、より効果的に広域圏を通した大船渡市の観光をPRする。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	●		×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	商業観光課長 鈴木 弘

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 ・広域連携のさらなる強化と効果的な事業推進により、成果の向上が期待できる。 ・費用負担に比べ、事業効果が少ないと思われる団体から脱退することにより事業費が削減できる。																					
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・実施事業の検証等を行い、効果的な事業への見直しを図るよう各団体に働きかける。 ・費用負担に比べ、事業効果が少ないと思われる団体からの脱退について検討する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	●		×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項
